

時間の音に耳をすませて

京都橘高等学校2年（京都府）

曾我 すみれ

茶道をしている時は、さらさらと時間が流れる音がしていると感じます。忙しい学生生活の中で、川のせせらぎのような穏やかな音が聞こえる場所。私にとって茶室とはそんな部屋です。

私の先生は外部から茶道を教えにきて下さる優しいおばあちゃんです。しかし、部員の名前を一人も覚えていらっしゃいません。初めてお会いした日「もう歳だからみんなの名前が覚えられないの。ごめんね」と言われました。その時は、先生と私たちはずいぶん違う時間を過ごしているのではないかと感じていました。世界史の授業でとにかく名前を覚えている私と私の名前を覚えていない先生とでは、ゆっくりと優雅にお茶を楽しむ先生とチャイムと同時に購買へダッシュする私とでは、互いにもものすごく遠い存在なのではないかと思いました。しかし、そんな寂しい感覚もすぐに無くなりました。別の日に、帛紗のお稽古をしていた時のことです。さっきまでは、あれはなんだっけと何かを思い出せずにいた先生が帛紗を持つと、いとも簡単に、流れるような仕草で帛紗をさばくのです。私はなかなか覚えられないでいて、手が止まったまま先生の帛紗さばきを見ていました。みるみるうちに姿を変える帛紗を見てると、先生が茶道と向き合ってきた時間の積み重ねを感じました。その後、他の人がお抹茶を点てて、私と先生はお茶をいただく番でした。その時に、先生が私くらいの頃は部活の種類が全然なかったことや、許状を取った教え子が就活の時同じく許状を取った面接官と出会った話などを聞きました。練りきりを食べながらお抹茶をいただきながら、プチニュース交換会とでもいうような他愛もない話だったり昔の話をして、この時初めて先生と私の中に全く同じ時間が流れていると感じました。違うスピードで歩いていた人たちが無理に歩幅を合わせずとも、川に飛び込めば同じ速度で流れるようなそんな感覚がありました。

茶道にはとてもたくさんのお点前やマナーがあります。例えば、茶室に入る時は腕時計を外すと言うマナーがあります。お茶碗を大切にするため、そして亭主に対して失礼にあたらないようにという理由でだそうです。以前は「失礼にあたらたら大変だ」としか考えたことがありませんでした。でも、いま考えてみると、時計を確認するその仕草が「もうこの時間が嫌なのだろうか」と相手を悲しませ、なにより同じ時間が流れることの妨げになってしまうからだと思います。するとマナーも手順も無機質なものではなくて相手を大切にする気持ちから生まれたのだと分かりました。要するに、マナーを知るたび相手を大切にする方法が分かっていくのだと思います。

茶道の最大の魅力は「思いやり」という名の作法によって、同じ時を感じられることだと思います。足早に過ぎる高校生活のなかで、帛紗をさばく音やお抹茶を点てる小さな音に耳をすませば、さらさらと流れると時間を感じられる気がして、それが茶道を通して幸せを感じる瞬間です。たくさんの作法を知れば、きっと同じ時間の流れを感じられる瞬間が増えていきます。これからも、大好きな先生のもとで茶道を学び続けたいと思います。